

ドイツのイースター

日本でもスーパーなどで名前を聞くようになってきたイースターについてちょっと紹介したいと思います。ドイツ語では、「Ostern」という名前です。この日はイエス・キリストが十字架にかけられ処刑された日の後の三日目に彼が復活し、死を克服したことを祝う日です。そのため、日本語では復活祭とも言われます。イースターの日は毎年変わり、その年の春分の後に来る最初の満月の日の後の日曜日がイースターになるそうです。そして、イースター前後の金曜から月曜までは特別な名前がついています。金曜日、つまりイースターの二日前は英語では **Good Friday**、ドイツ語は **Karfreitag**、日本語では聖金曜日もしくは受難日といわれます。名の通り、キリストの死と受難を祝う日です。キリスト教ではイエスの受難と死は自らの意思によって人間の持つ罪をすべて背負ったことで、人は神からの愛を受けるようになったといわれます。イースターの次の日である月曜日は、英語では **Easter Monday**、ドイツ語では **Ostermontag** といわれます。この日は、国や地域によって休日かどうか分かれ、ドイツではこの日は休みです。そのため、ドイツでは合計4連休となるようです。

次にイースターと言えば、イースターエッグとウサギが有名なのでそれについてちょっと話します。イースターの時期になると鶏の卵を華やかに飾ったイースターエッグを見ることができます。また、スーパーではお菓子がチョコやプラスチックでできた物も売られているようです。ドイツでは、この卵をイースターバニーというウサギが卵やおもちゃ、お菓子をバスケットに入れて持ってくるという伝承があり、今では子供たちは復活祭の日に家の庭に隠されたお菓子などを探します。イースター自体は東方、西方教会の両方で行われているのですが、イースターバニーは西方教会のみです。この起源は16・17世紀にルターが作ったドイツのルテール教徒が起源となっています。初期は、野ウサギが裁判官として子供の行いを見て、よい子にだけお菓子を与えたそうで、クリスマスのような感じだったようです。キリスト教では卵は生命の誕生を意味し、ウサギは多産や豊穡の象徴であることから、多くの花が咲く春のイースターとつながっていきました。

最後に、今年のドイツのイースターは4月1日でした。それから二週間後にトリア大学で撮った写真です。日本のように満開の桜の木がありました。ドイツにも春がやってきました。

